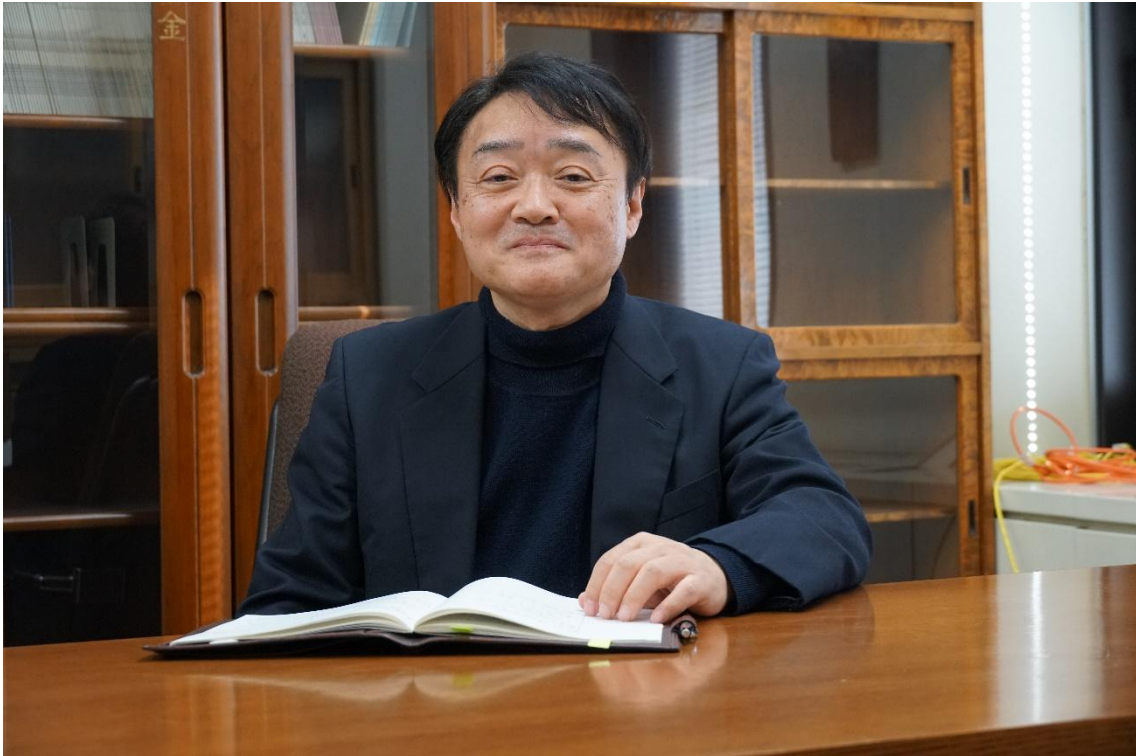


所長就任にあたり



この4月から、信濃教育会教育研究所長に就任いたします岩川直樹です。私のような者がこの大役を担うことに身の震える深い責務を感じています。

思えば、私が教育研究を道に定めたのは、長野県の教師たちとの出会いによるものでした。そのとき鮮明に感じたのは、ああ、ここにこそ真の教育探求があるという思いでした。具体的な状況のなかで、目の前の子どもたちと向かい合いながら、なにがほんとうに大切なことなのかを問いつづけ、その過程で自分たちが当たり前にしてきたことを問い直すとともに、その時代や社会に流通する支配的な言説を問い返してゆく実践的探求。そこに渦巻く熱い息吹に圧倒され、いったい自分になにができるのかわからなくなり、それでもそこに渦巻くものの意味を見つめ直しているうちに、そうか自分にできることがあるとすれば、この教師たちと問題を並び見る研究者になることなのだと思ってきました。

時代や社会の変化とともに研究所の意味が問われ、その役割が変わることはとても自然なことです。教師たちが外部のさまざまな研究機関とつながることで新たな視点をもつこともなくてはならないものです。しかし、もう一度いま、教師たちがつくった信濃教育会のただなかに研究所があることの意味に立ち返りたいと思います。目の前の子どもたちと向かい合う教師たちこそが実践的研究者にならないといけない。研究所がその息吹を広げる拠点になればと願っています。